

立命館經濟學

第四卷 第四號

昭和三十年十月

木村教授還曆祝賀論集

内 容

古典学派の経済的自由の制度……………井 上 次 郎 1	
——スミスからリカードへ——	
経営参加と労働協約……………平 田 隆 夫 25	
社会統計学における統計的方法と非統計的 方法の性格……………関 彌 三 郎 49	
——ジージェックを中心として——	
経 営 設 備……………祭 原 光 太 郎 75	
税務監査をめぐる若干の問題……………高 尾 忠 男 101	
アメリカにおける会計理論と実践の展開……………津ノ国 長四郎 118	
いわゆるカントリー・ゲームについて……………高 見 沢 茂 治 169	
アメリカにおける株価論争……………住ノ江 佐一郎 195	
アメリカにおける商業銀行の問題点……………小 牧 聖 徳 230	
いわゆるダイレクト・コストिंगの吟味……………寺 島 平 255	

立 命 館 大 学 經 済 学 会

立命館経済学

第四卷・第二号

論説

J・S・ミルに於ける財政思想(一)

箕浦 格良

証券価値論への前提

住ノ江佐一郎

高島炭坑に見る明治初期の親方制度の実態

——「我が国鉱業労働における封建性と

親方制度」補論その二——

大山 敷太郎

四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想(下の中)

梯 明秀

資料

大量通信交通と新聞の匿名主義(上)

淡川 康一

発行所

立命館大学人文科学研究所

立命館経済学

第四卷・第三号

論説

わが国鉱業〔石炭〕における親方制度の解体過程

——「わが国鉱業労働における封建制と

親方制度」補論その三——

大山 敷太郎

唯物論についての覚え書(その二)

阿部 矢二

資料

新中国の人民券の本質と機能について 武藤 守一

大量通信交通と新聞の匿名主義(下) 淡川 康一

T・B・ヴェブレン方法論の論難

浜崎 正規

発行所

立命館大学人文科学研究所